

履修について 【重要】

- ◆ 樋口が 2019 年度前期に担当するすべての授業、ゼミについて、単位取得の必要条件は次の2点です。必要条件ですので、以下のすべてを満たしても、単位取得が保証されるわけではありません。基本的に例外はありませんので、内容を十分理解したうえで履修を行って下さい。

① 13 回以上の出席と行動課題の提出：

- ・ 履修登録期間を含め、13 回の出席および 13 回以上の行動課題の提出なければ「不可」になります。
- ・ 4 か月間の履修期間中には、不慮の事故・病気・人間関係などの理由で欠席せざるをえないことが起こり得ます。その時のために常に余裕を持って出席してください。例外として、大学が認めた公欠(感染症、忌引、裁判員)に関しては、公欠届と課題の提出があれば出席扱いとします。登録調整期間中の欠席(未登録を含む)、病欠、クラブ活動の遠征などは欠席扱いです。
- ・ 原則として、授業の内容に沿った行動課題が毎回提示されます。授業と行動課題は一体であるため、未提出の場合は授業に出席していても欠席扱いとなります。また逆に、授業に出席せずに行動課題だけを提出しても受講扱いにはなりません。行動課題の内容は、レポートの評価基準(次ページ参照)に基づいて、2 段階評価します。学務システムで○と表記されている場合は、力のある課題だと評価されています。△と表記されている場合は、課題に取り組む熱量不足です。出席はカウントしますが、遅刻扱い(3 回で欠席)で処理します。私は、課題の「熱量」を主に見ますので、意見の相違や激しさは全く問題視しません。
- ・ 提出は次回の授業の前日までメールにて送付のこと。期限以降の提出は認められません。
- ・ その日の課題は、その日が終わるまでにとりかかってください(必ずしもその日に終える必要はありません)。課題の提出があっても内容が「不十分」と評価された場合は欠席扱いとなります。
- ・ みなさんの「出席の状態」は学務システムから確認できます。入力項目に制約がありますので、以下の通りに運用します。
 - ◇ 授業に欠席(出席をとった時に不在)： /
 - ◇ 授業へ出席(出席をとった時に在席)： ▽
 - ◇ その日の授業の課題提出(出席扱い)： ○
 - ◇ その日の授業の課題提出。ただし提出への取り組みが情熱不足(遅刻扱い)： △

② レポートの提出：

- ・ 指定されたレポートの提出がなければ、単位は取得できません。
- ・ 期限外提出は、その内容がどれほど良くても「C」が評価の上限となります。
- ・ レポートの提出と、私から学生への返信はメールによります。今は、スマートフォンのアプリで Gmail をタイムリーに確認できる時代です。私から送付したメールは皆さんに届いたものとしてみなしますので、メールの受信は定期的に確認するようにしてください。特に期末は単位取得に関わる重要なやり取りがなされる可能性があります。
- ・ 携帯メールアドレスから送付される学生がいますが、私の PC からの返信がブロックされる可能性があり、この場合必要な連絡事項が届きません。自身の責任で送信するアドレスを選択してください。

◆ レポートの評価基準に関しては以下を御参考下さい。

私が皆さんと接することの目的は、皆さんが、①自分の力で深く思考すること、②自分の内なる動機に基づいた行動を通じて自分をよりよく変えてゆくこと、③人の役に立つことで自分の人生を更に豊かにすること、の手助けのためです。この目的に沿って、以下が重要な評価基準となっています。

- ・ **第一に、理解と思考の深さ**： レポートであれ、授業であれ、課題であれ、理解が深くなければ、深い思考は難しいでしょう。また、深い思考が深い理解を助けます。
- ・ **第二に、個性**： その人独自の思考、その人の葛藤、その人の言葉、その人らしさ、間違い、勘違い、行き過ぎ、失敗も含め、はっきりした個性が伝わる内容であれば、高い評価となります。常識的な、「正しい」意見である必要はありません。また、私の意見に賛同する必要はまったくありません。むしろ激しく反対する内容の方が、好ましいくらいです。
- ・ **第三に、行動が伴っていること**： 私は、学ぶということは、行動することだと思っています。どれだけ知識を獲得しても、行動しなければ学んでいないことに等しく、人生に何のインパクトも生じません。成功した行動、失敗した行動、いずれにおいても皆さんが行動によって学びを表現することで、評価が上がります。回答に間違いはありません。行動の「パワー」を評価します。
- ・ **第四に、人の役に立つこと、そして幸福であること**： 行動することの意味は他人と自分を幸福にするということでしょう。人を幸福にしない行動は意味を持ちませんし、自分が幸福でなければ人を幸せにすることもできません。「やらされている」感覚より「楽しんでやる」感覚を評価します。

◆ 課題図書、関連資料、期末レポートの内容などはすべて、私のウェブサイト([トリニティアップデート](http://www.trinityinc.jp/updated) ▶ 沖縄大学 ▶ 2019 年前期)にアップします。授業がシラバス通りに進行するとは限りません。関連情報のアップは、授業終了後数日を要することがあります。

2019 年 3 月 掲 示

樋口耕太郎(ひぐちこうたろう) 研究室:3号館505号室 携帯電話:090.1428.9185

ウェブサイト: www.trinityinc.jp/updated

メールアドレス: higuchi@ + 沖大共通ドメイン(Okinawa-u.ac.jp)

メール、フェイスブックなどからの連絡はいつでも構いません。携帯電話は午後から深夜が繋がりやすいと思います。